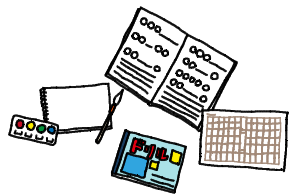


「目指す子どもの姿」の設定・共有化に向けて（実践例）



※「目指す子どもの姿」

…ここでは、教科等の指導における目指す子どもの姿

*言葉の解釈は人によって異なる場合がありますので、皆で話し合うなどして、言葉の解釈の共通理解を図り、「目指す子どもの姿」の具体的なイメージを全職員で共有することが大切です。

- ☐学校の教育目標、子どもたちの実態、今年度の検証結果、自校の課題、地域や保護者の願い等を踏まえている
☐学力の三要素（のいずれか）を含んでいる ☐使用する言葉の意味の共通理解が図られている（*）

来年度の「目指す子どもの姿」

1 自校の子どもの姿（今年度の「研修の評価結果」等から）

学習上の子どものよさ

学習上の子どもの課題

よさを更に伸ばし、課題を改善するために…

2 来年度、育てたい力・身に付けさせたい力

(1)
(2)
(3)
(4)

- ☐評価できる力（資質、能力）となっている
☐教科等の指導を通して育て、身に付けることができる力となっている

育てたい力・身に付けさせたい力が育っているかどうかを判断するために…

その力を伸ばすため・育てるために、皆で意識すること、実践することは…

○ 共通実践事項

2 (1)
2 (2)
2 (3)
2 (4)

- ☐「育てたい力」を育てることができる実践となっている
☐全教職員が共通し、継続して取り組めるものとなっている（どの教科でも実践可能なものとなっている）
☐共通実践するための具体的な手立て等が設定されている

○ 評価の時期と集計・分析する人

評価の時期	集計・分析する人

- ☐評価方法にふさわしい時期設定となっている
☐評価の集計・分析の仕方が共通理解されている
☐評価結果の集計等が特定の担当者に偏ることなく分担されている

○ 評価結果の改善

--

- ☐組織で取り組む内容となっている
☐共通理解を図る場、意見交換のできる場が設定されている

○ 評価方法

2 (1)
2 (2)
2 (3)
2 (4)

- ☐2 (1)～をそれぞれ評価できる方法となっている
☐教科の枠を超えて評価できる評価方法となっている
☐誰が評価しても同じ結果が得られる方法となっている
☐自校で工夫改善された評価方法となっている

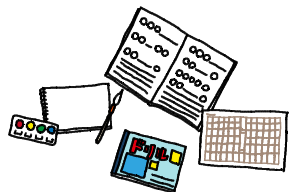
○ 評価結果の判断の基準

2 (1)
2 (2)
2 (3)
2 (4)

- ☐どの程度の実現状況を目指すのが共通理解されている
☐「おおむね満足」と判断する根拠がそれぞれ明確であり、妥当性が高い
☐複数の評価方法の結果がどうであれば、全体として「おおむね満足」と判断するかが決まっている

【記入例】

本資料は、全職員で共通理解を図りながら作成することが望ましい。研究主任等が単独で作成する場合でも、管理職をはじめとして全職員で確認・点検し、共通理解を図ること。



「目指す子どもの姿」の設定・共有化に向けて（実践例）

自分の考えを深め、分かりやすく表現することができる子ども

- ☐ 学校の教育目標、子どもたちの実態、今年度の検証結果、自校の課題、地域や保護者の願い等を踏まえている
- ☐ 学力の三要素（のいずれか）を含んでいる
- ☐ 使用する言葉の意味の共通理解が図られている（＊）

※「目指す子どもの姿」

…ここでは、教科等の指導における目指す子どもの姿

＊言葉の解釈は人によって異なる場合があるので、皆で話し合うなどして、言葉の解釈の共通理解を図り、「目指す子どもの姿」の具体的なイメージを全職員で共有することが大切です。

来年度の「目指す子どもの姿」

1 自校の子どもの姿（今年度の「研修の評価結果」等から）

学習上の子どものよさ

体を動かすことが好きで
活動的な学習を好む

皆で協力しながら学習に
取り組んでいる

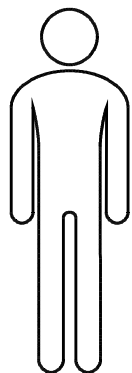
発表の際の「最初に結論、
それから根拠」が定着しつ
つある

学習上の子どもの課題

人前で意見を述べること
に消極的

落ち着いてじっくり取り
組むことが苦手

基礎的・基本的な知識や
技能が定着しにくい



よさを更
に伸ばし、
課題を改
善するた
めに…

2 来年度、育てたい力・身に付けさせたい力

(1) 今まで学んだことを生かし、根拠を基に考える力

(2) 思考・判断し、処理する力

(3) 思考・判断し、表現する力【最重点】

(4)

- ☐ 評価できる力（資質、能力）となっている
- ☐ 教科等の指導を通して育て、身に付けることができる力となっている

育てたい力・身に付けさせ
たい力が育っているかどう
かを判断するために…

その力を伸ば
すため・育て
るために、皆
で意識するこ
と、実践する
ことは…

※2(1)～のどの力を育てるための共通
実践事項かを意識する

○ 共通実践事項

2(1)(2)(3) 「子ども主体の授業づくり」の推進（教師の話す時間の削減、指示と発問の精選、問題解決型学習の推進、活動時間の保障 等）

2(1) 学習意欲を高める工夫（具体物の活用、意外性の利用、生活や職業との関連付け、関連する学習内容の振り返り 等）

2(3) 「〇〇小(中)・話形スタンダード」の推進（「結論」→「根拠」という説明の流れ、類似点や相違点の明確化、接続語の意識化 等）

2(3) 「まとめ・振り返り」活動の充実（「授業で学んだこと、分からなかったこと、もっと勉強したいこと等」を書く時間の保障 等）

- ☐ 「育てたい力」を育てることができる実践となっている
- ☐ 全教職員が共通し、継続して取り組めるものとなっている（どの教科でも実践可能なものとなっている）
- ☐ 共通実践するための具体的な手立て等が設定されている

○ 評価の時期と集計・分析する人

評価の時期

【短期】7月・10月・12月の第一週、又は
前期終了後、又は夏休み・冬休み前

集計・分析する人

学級担任、教科担任、
研究部員 等

【長期】2月初め

学級担任、教科担任、
教頭、研究部員等

※ここでは、研究部を研究主任・研究副主任・
教科主任・学年主任 で構成している

- ☐ 評価方法にふさわしい時期設定となっている
- ☐ 評価の集計・分析の仕方が共通理解されている
- ☐ 評価結果の集計等が特定の担当者に偏ることなく分担されている

○ 評価結果の改善

- ①集計・分析の終了後、研究部会を開催し、改善案を検討・決定する（取組体制の点検・修正、共通実践事項の確認・修正・見直し、重点実践事項の定着と成果を受けた次の重点実践事項の検討 等）
- ②翌日の職員朝会等で改善案の資料等を配付し、説明する。次の職員会議で改善事項を各自で実践した問題点等を協議し、修正する

- ☐ 組織で取り組む内容となっている
- ☐ 共通理解を図る場、意見交換のできる場が設定されている

○ 評価方法

※H27「確かな学力」向上推進協議会Ⅰ
で配付した【参考資料Ⅱ】を参照

2(1) 記述式テスト（主に思考力、判断力を問う自作問題）、子どもの自己評価、教師アンケート 等

2(2) 学習シート（思考の流れ、振り返りの記述内容を中心に）、子どもの自己評価、観察法 等

2(3) 〇〇小(中)表現カルーブリック表(低・中・高学年別)、子どもの自己評価、教師アンケート 等

2(4)

- ☐ 2(1)～をそれぞれ評価できる方法となっている
- ☐ 教科の枠を超えて評価できる評価方法となっている
- ☐ 誰が評価しても同じ結果が得られる方法となっている
- ☐ 自校で工夫改善された評価方法となっている

※基準…主に量的なもの、規準…主に質的なもの、と捉える

○ 評価結果の判断の基準

2(1) 記述式テストの正答率6割以上（昨年度の通過率から基準を設定）、前回の自己評価結果より8割以上の項目の数値が上昇 等の全ての成果が認められれば「おおむね満足」

2(2) 評価期の学習シートの「期待する記述例」にほぼ全員が到達、前回の自己評価結果より8割以上の項目の数値が上昇、抽出児（グループ）の経過観察で明らかな成長が見られる 等の全ての成果が認められれば「おおむね満足」

2(3) 本校の現状がルーブリック表（4段階）の2段階に相当するので3段階以上にする、前回の自己評価結果より8割以上の項目の数値が上昇 等の全ての成果が認められれば「おおむね満足」

2(4)

- ☐ どの程度の実現状況を目指すのかが共通理解されている
- ☐ 「おおむね満足」と判断する根拠がそれぞれ明確であり、妥当性が高い
- ☐ 複数の評価方法の結果がどうであれば、全体として「おおむね満足」と判断するかが決まっている